



楽しくて力のつく学校

石部小学校 校報 第27号

平成22(2010)年11月17日

電話：77-2030

Fax：77-6733

ホームページ [http://www/.edu-konan.jp/ishibe-el/]

道徳郷土資料 (1)

先月、第26号で道徳の時間で使う「郷土資料」の紹介をしましたら、地域の方から「神保里さんのことは、よく話を聞いた。どんな資料ができましたか?」とのお尋ねがありました。他校の先生からも「道徳の地域資料を見せていただけませんか」とのお話をいただきました。

校報の裏面でひっそりと紹介する予定でしたが、そのような声を受け、今回は第1面で紹介します。

石部小学校の恩人 神保里さん

石部小学校に神保里さんの胸像があります。りんとした 気品のある やさしさが香り出るとてもいいお顔です。

「この国がりっぱになるには、子どもたちがしっかり勉強してくれることです。」

神保さんは、子どもが大好きで、石部小学校の子どもたちを、いつもやさしく見守っていました。

大正十五(一九二六)年には、働きながら勉強にはげむ二宮金次郎の石像を寄贈されました。

子どもたちは、朝夕に校門のすぐ前にある石像を見て、「しっかり勉強しよう」と、どんなにはげまされたことでしょう。

昭和三十一(一九五六)年には、いたんだ講堂を修理するためのお金とともに、そのころ、滋賀県の小学校には、ほとんどなかった グランドピアノを、石部小学校に寄贈されました。子どもたちはもちろん、先生方も町の人びとも、どれほど喜んだか知れません。グランドピアノがある小学校を、子どもたちはなによりもほこりに思いました。当時、小学生だった人たちは、「石部小学校がかがやいて見えた。」と言っています。

学校にこうした さまざまな寄附をされた神保里さんは、けっしてめぐまれた家庭のお金持ちではありませんでした。子どもが一人暮らして、すまいは部屋をかりて、着物を売り歩きながら、暮らしを立てていました。貧しい生活の中で、こつこつとお金を貯め、そのすべてを石部小学校へ寄附されたのです。

「わたしには子どもがありませんが、石部の町の子どもがみんなわたしの子どもです。」

胸像には、つぎの言葉がきざまれています。

幼な子へ

しんぼ望みて

学びやに

よく励めよと

影をとどむる

(文：野呂 昶)



先日、「遠藤亮規と八石教会のことを調べている」とおっしゃる方が学校に来られたので、分かったことを教えていただき、郷土資料として活用させていただきたいことを伝えました。「最近亡くなった歌人で歌会始選者の河野裕子さんは、石部小学校の出身ですよ」とのお話も伺っています。道徳の地域資料にすればどうかと思われる情報をお持ちの方は、校長あてご連絡をお願いします。(有名な方の話ばかりでなく、地域の方々が力を合わせて取り組んだ話も大歓迎です。)

学校応援団のお陰 **ありがとう** **ございます**

◆交通安全・自転車教室<10月19日>

石部の生活道路を使つての実践的な自転車教室。安全確保のために、学校応援団の方々に大変お世話になりました。

全校児童が生活道路に自転車が出るのは危険なため、3・4年生を対象に実施しました。皮肉なことに自転車教室の後、高学年の子どもが事故、低学年の子どもが信号無視を起こしました。日暮れが早くなります。ご家庭でも、交通安全の指導を是非よろしくお願いします。



◆安全確保の準備会議



◆自動車が走っている道路での実践的訓練です



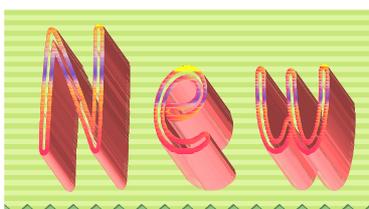
◆低学年は、見て学びます

◆もちつき大会・5年<10月29日>



久里利勝様・山元角雄様はじめ「ふれあい農業いしべ」の皆様、JA山口様。たくさんの方にお世話になり、もちつき大会ができました。

松村 喜代藏 様
黄之瀬 昭 様
山中 勇 様
小野田 吾郎 様
原田 雅夫 様
佐久間 澄子 様
中澤 藤子 様



掃除ボランティア

たくさんの参加をお待ちしています。お気軽に。



昔、学校にだけピアノがあった時代、学校は地域の文化の灯台でした。

今、学校の教室にはクーラーが無く、掃除には^{ほうき}箒を使っています。その箒もブラシ型をしていて、子どもたちは電気掃除機を使うように、押しています。

そんな折、若林綾子さんと山本享子さんが「掃除ボランティア」に来てくださいました。ボランティアの方々には、子どもと「つながる＝顔見知りになる」ことを期待していますので、子どもたちと一緒に掃除をしていただきました。

『はく』という動きができていませんねえ」と、子どもたちの動きをつかまれたお二人、「ぞうきんを『しぼる』ことはできるけれど、『もむ』ことができませんねえ」と鋭いご指摘。

「はく・もむ・しぼる」などの動作は、だんだんなくなりました。ご家庭でも意識的に子どもたちにさせていただくよう、お願いします。